



目どるの近所付き合いが身を守る!! 育てよう地域の力「自主防災組織」

地域力復活の先駆けとして

毛呂山台防犯・防災ネットワーク

毛呂山台防犯・防災ネットワークは、防犯・生活手助け班と防災班に分けられ、活動を行っている。

防犯・生活手助け班の主な活動のひとつに、定期的な高齢者世帯の訪問がある。「これからの自治会活動として、特に求められるのは、高齢者の見守り活動です。見守り活動は、丁寧かつ継続的に行うことが重要だと考えます。」と佐藤班長は話してくれた。

また、防災班の活動としては、消火器や消火栓の管理、年1回の防災訓練がある。「平成24年に毛呂山台独自の『緊急災害対策本部活動マニュアル』を作成し、昨年度は、そのマニュアルに基づき「オール毛呂山台」で全住民対象の防災訓練を行いました。多くの人の参加があり、大変有意義であったと感じています。」と吉田班長は話してくれた。

防犯・防災ネットワーク活動



大勢の人が参加して行われた昨年の防災訓練

のように毛呂山台の自治会活動の特徴のひとつとして、多くの人自主的に自治会活動に参加ができる仕組み作りができていくところにある。そのことに対し、長瀬会長は「現在、どの自治会もその運営に苦労をしているといえます。自治会は、住民が安心して暮らすための一番基本的な単位です。今後暮らしていく人のために、地域力を復活させることが急務だと考えます。」と話してくれた。

毛呂山台では、将来を考え自治会活動に取り組んでいる。

毛呂山歴史教室 第244回 毛呂山鉄道物語1 ～JR八高線～

JR八高線は、毛呂山町中央部を南北に縦断しています。

八高線の歴史は古く、昭和初期から住民の交通手段、貨物路線として利用され、今年で全線開通80周年を迎えました。

開業当初の八高線は、高崎と八王子を結び、八王子から別路線で、横浜方面へ、軍事物資・群馬方面で生産された生糸や絹などの特産品のほか、秩父方面からのセメントを輸送するための重要な路線でした。八高線の開通の背景には、戦争や災害で、首都機能がマヒしてしまつた際に、北関東方面から東京を縦断し、東海道線方面へと繋ぐ輸送ラインを確保することが必要だったことがあります。

当初八高線は、大正時代（1912～1926）に開通する予定

でした。しかし、大正12年（1923）に関東大震災がおこり、八高線開通のための予算を震災復興の予算として使つたため、工事は、一時期中断してしまいました。災害による苦難を乗り越えて、八高線は、昭和6年（1931）に八王子～東飯能間、昭和8年（1933）に東飯能～越生間が開通し、あわせて毛呂駅も開業しました。毛呂駅も開業して80年が過ぎましたが、開業当初から、旅客者のためだけでなく、肥料や石炭、セメントなどを町内に運ぶためにも利用されてきました。駅舎も、これまでに数回の増改築が行われていますが、開業当初の建物が現在も利用されています。

八高線は、時代の経過とともに、その役割や沿線の景観も変わりつつありますが、これからも地域の人を支え続けていくことでしょう。



八高線開通祝アーチ